

令和 7 年 5 月 25 日現在

機関番号：32689
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2024
課題番号：20K12470
研究課題名（和文）インドネシアにおけるフェミニズム運動とイスラーム

研究課題名（英文）Feminist movements and Islam in Indonesia

研究代表者

見市 建（Miichi, Ken）

早稲田大学・国際学院（アジア太平洋研究科）・教授

研究者番号：10457749

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：インドネシアのイスラミック・フェミニズムとイスラミック・反フェミニズムの(a)思想内的特徴、(b)運動の系譜、(c)運動の戦略、について体系的な研究を実施した。文献と言説の収集と分析、現地でのインタビューと参与観察、インドネシアおよびマレーシアの関係者の日本への招聘と3度の国際ワークショップの実施、2019年婚姻法改正を中心とした政策過程の分析を行った。その成果を英語および日本語の論文として発表することで、インドネシアを中心としたイスラーム政治思想やジェンダーをめぐる社会運動研究に新たな知見を示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、インドネシアのイスラームの教義に基づくフェミニズム思想（および反フェミニズム）の形成と発展、その実践のありかたを体系的に明らかにした。イスラーム政治思想や社会運動としての学術的な意義に加え、ムスリム社会における女性の権利拡大のメカニズムを明らかにした政策的な意義がある。

研究成果の概要（英文）：A systematic study was conducted on Islamic feminism and Islamic anti-feminism in Indonesia, focusing on (a) their ideological characteristics, (b) the genealogy of their movements, and (c) their strategic approaches. The research involved collecting and analyzing literature and discourse, conducting interviews and participant observation in the field, inviting relevant figures from Indonesia and Malaysia to Japan, and organizing three international workshops. The study also analyzed the policy-making process surrounding the 2019 revision of the Marriage Law. The findings were published in both English and Japanese, contributing new insights to the study of Islamic political thought and gender-related social movements, with a particular focus on Indonesia.

研究分野：地域研究

キーワード：インドネシア イスラーム フェミニズム 社会運動

1. 研究開始当初の背景

新興ムスリム諸国におけるジェンダー開発指標の低さ、割礼の習慣や服装規定などから、イスラームには「女性差別的」であるとのイメージが強い。これに対して、ジェンダー研究は宗教運動に参加するムスリム女性、彼女らを取り巻く日常的な宗教規範や慣習を観察し、そのなかでの彼女たちの主体性を強調してきた。

またモロッコ出身のファティマ・メルニースーヤやアメリカのアミーナ・ワドゥードらを嚆矢に、現代のムスリム女性によるイスラミック・フェミニズムが既存の宗教理解や教義解釈に風穴を開けてきた。こうした言説は欧米在住のムスリムに大きな影響を与え、彼女らの政治進出や社会変革の起動力となっている。他方、中東・アラブ諸国では禁書になっていることも多く、ごく一部の知識人にしか知られてこなかった。

インドネシアでは、ムスリムが多数派の諸国においては例外的に、欧米やムスリム知識人によるフェミニズム言説が翻訳され、知識人や活動家の間で比較的広く流通してきた。1998年の民主化後には主要イスラーム組織を基盤とする複数の有力フェミニスト NGO が結成されている。イスラミック・フェミニズム運動は非宗教的なグループと協調しながら、旧態依然とした法制度の改革に取り組み、成果を挙げている。またソーシャルメディアを通じて彼(女)らの主張が展開され、一般のムスリムからも広い関心を惹きつけるようになってきている。他方で近年ではこれに対抗する反フェミニズム運動も組織され、ソーシャルメディアを通じて、反イスラーム的な欧米諸国の手先、LGBTQ+権利団体と並んで「道徳的な荒廃」をもたらす危険な存在であるとの攻撃を強めている。ジェンダーをめぐる政治は、宗教イデオロギーの主戦場となっている。

以上のようにインドネシアのフェミニズム運動は、法制度の改革を実現するほどの政治的影響力を持つに至っている。またイデオロギー的な対立は勢いを増している。しかしインドネシアの政治研究はいまだに男性中心の伝統的な権力政治の分析に集中し、フェミニズム運動への関心は低い。ソーシャルメディアを利用した社会運動は政府の政策変更にたびたび成功しているが、こうした研究も端緒についたばかりである。

2. 研究の目的

本研究は、インドネシアにおけるイスラミック・フェミニズムと反フェミニズムの思想、組織と戦略を明らかにすることを目的とする。比較的広範な社会的基盤を持つインドネシアのイスラミック・フェミニズムは、イスラーム政治思想とその社会運動としての実践の先進事例として、他のムスリム諸国における研究や政策的な発展に新たな視角を提供する。

3. 研究の方法

本研究はイスラーム法の革新的な解釈に基づくフェミニズムとこれに対抗する反フェミニスト勢力の思想内容と運動の系譜、両者の戦略を分析する。具体的な分析対象となるのは以下の点である。

(a) 思想内容とその系譜：欧米発祥のフェミニズムなど外来の思想とインドネシアにおけるその吸収と独自の発展、現在の運動への反映について分析する。そこで、民主化運動の台頭とともに1990年代後半から翻訳されはじめた、海外の活動家の思想とともに、インドネシア独自のイスラミック・フェミニズム思想の発展を検討する。とくに法制度など現地の事情を踏まえた思想の構築については明らかにされていない点が多い。対抗するイスラミック・反フェミニズムの発展についても検討する。

(b) 運動の系譜：世俗的なフェミニズム運動とイスラミック・(反)フェミニズム運動はそれぞれ異なる由来を持ち、台頭の時期にもズレがある。そこで、それぞれの系譜を整理し、異なる運動間の連合あるいは対立が深まる過程を分析する。とくに1998年以降の政治的自由化とソーシャルメディアの発展は、世俗的な運動とイスラミック・フェミニズム運動のより緊密なコミュニケーションを促進した。その成果として2017年に女性ウラマー会議(KUPI)が開催され、約2000人の活動家を集めた。KUPIは常設のコンソーシアムとなり、女性の権利向上のための法改正や新法制定の理論的根拠も与えている。反フェミニズム運動の組織化と、より大衆的な女性団体の包含の過程も検討課題である。なかでも反フェミニズムを統括するNGOで、ロビー活動などで際立った動きをみせている家族愛連合(AILA)が注目に値する。

(c) 運動の戦略：フェミニスト勢力によって提起された女性の権利保護のための2つの法律の政治過程を分析することによってイスラミック・(反)フェミニズム運動の戦略を明らかにする。2015年の失敗後に2019年に実現した女性の結婚最低年齢の引き上げ(婚姻法改正)、2019年に失敗後に2022年に成立した性暴力排除法をめぐる政治過程である。なかでも、(1)ソーシャルメ

ディアを通じた世論形成、(2)省庁および国会担当委員会(政党政治家)へのロビー活動、(3)選挙における争点化、を対象とする。

以上の分析は、それぞれの思想の核となる資料の収集とインタビュー、参与観察、国際ワークショップにおける意見交換をもとにする。そして、インドネシアにおける政治過程とジェンダーをめぐる政治対立の構造を明らかにする。

4. 研究成果

イスラミック・フェミニズムとイスラミック・反フェミニズムの(a)思想内容とその系譜、(b)運動の系譜、(c)運動の戦略、について体系的な調査と分析を行なった。

イスラミック・フェミニズムについては、手始めに2017年のインドネシア女性ウラマー会議(KUPI)の公式文書の翻訳と分析を行なった。明らかになったのは、「マカーサイド・シャリーア(法の目的)」論を援用した革新的な法解釈の手法と具体的な政策変更へのコミットメントである。マカーサイド・シャリーア論はさまざまなイスラームの法規定の背後にある根本的な目的(例えば「宗教・生命・生殖・財産・理性」の原則)に立ち戻り、これらの目的に適う法解釈を行うものである。そして、政策実現のためのネットワークと慎重な戦略である。KUPIの全国大会は、副大統領や宗教大臣や海外からのゲストを呼ぶことで、正統性を高めるとともに、宗教的か世俗かを問わず多くの活動家が集めた。また既存の宗教解釈、とくにこれまでで宗教裁判所で採用されてきたイスラーム法集成(KHI)に配慮している。KHIに取って替わるといよりは、解釈を追加することで既存の宗教権威との対立関係を回避している(業績)。また、イスラミック・フェミニズム運動の国際的なネットワークについても、多くの示唆を得られた。とくに社会的な基盤を築いてきたインドネシアと国際的な発信に優れたマレーシアの活動家たちとの関係を明らかにした(業績)。

イスラミック・反フェミニズムは、フェミニズムを「反イスラーム的」な言説であり、西洋による「思想的な侵略」の一端であると捉える。他方、本研究が発見したのは、その主張が皮肉にも西洋とくにアメリカにおける保守派の論理に頼っていることである。アメリカの保守派はキリスト教と深く結びつき、ときに反イスラームの立場を取る。しかし、「行き過ぎた個人主義」を否定して家族を重視する点、リベラル勢力による「道徳の破壊」への危惧など、共通点が多い。反フェミニズムは、ムスリム社会に限らない、現代的な保守的な反動現象と捉えることができるのである(業績)。

最後に、国会や憲法裁判所を舞台とした法改正における戦略である。イスラミック・フェミニズム運動は、女性の権利保護や向上に向けた宗教的な正統性を高め、拡大させている。他方で、既存の宗教的権威からの反発を避け、また広い連帯を組むために、ときに宗教的言説よりも普遍的な人権概念による訴えを優先させる。さらに、経済開発を重視する大統領に対しては女性の権利保護が経済発展に寄与するといった論理も援用した。以上のようなネットワーク形成とフレーミングの巧みな運用が特徴的である。他方、反フェミニズム運動は、選挙の機会を利用し、フェミニストの主張が「性的な乱れ」につながるといった流言飛語を用いて、政治家の法案成立意欲を削いだ(業績)。

以上の議論は、インドネシアを中心としたイスラーム政治思想とその運動の研究に加え、広くムスリム社会におけるジェンダーをめぐる社会運動研究にも寄与するものである。

関連主要業績

見市建「インドネシア女性ウラマー会議(KUPI)『公式資料：過程と結果』 解題と抄訳」『アジア太平洋討究』40, pp.121-143, 2020年。

見市建「ジェンダーの政治と大統領選挙 分極化の犠牲となった性暴力排除法案」川村晃一編『2019年インドネシアの選挙 深まる社会の分断とジョコウィの再選』『アジア経済研究所』pp.81-98, 2020年。

Ken Miichi, "Post-Islamism Revisited: The Response of Indonesia's Prosperous Justice Party (PKS) to Gender-Related Issues," *The Muslim World*, 110(4), 2020, pp.589-604.

見市建、ハズマン・バハロム「リイス・マルクスとザイナ・アンワール インドネシアとマレーシアにおけるイスラミック・フェミニズムの発展」久志本裕子、野中葉編『東南アジアのイスラームを知るための64章』明石書店、2023年、pp.357-362。

Ken Miichi, "Anti-Feminist Discourse in Indonesia: A Case Study of the Family Love Alliance (AILA)," in Farish A. Noor, Lies M. Marcoes, Moch Nur Ichwan (eds.), *Trajectories of Indonesian Islam: Festschrift in Honour of Martin van Bruinessen*, Depok: UIII Press, 2024, pp.149-163.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Ken Miichi	4. 巻 24(1)
2. 論文標題 Indigenizing Islamism in Indonesia: Prosperous Justice Party 's Approaches Towards Traditionalist Muslims	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Politics, Religion and Ideology	6. 最初と最後の頁 120-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/21567689.2023.2190893	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Miichi Ken	4. 巻 110
2. 論文標題 Post Islamism Revisited: The Response of Indonesia 's Prosperous Justice Party (PKS) to Gender Related Issues	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Muslim World	6. 最初と最後の頁 589 ~ 604
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/muwo.12367	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Miichi Ken, Kayane Yuka	4. 巻 8
2. 論文標題 The Politics of Religious Pluralism in Indonesia: The Shi'a Response to the Sampang Incidents of 2011?12	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 TRaNS: Trans -Regional and -National Studies of Southeast Asia	6. 最初と最後の頁 51 ~ 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/trn.2019.12	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 見市建	4. 巻 40
2. 論文標題 インドネシア女性ウラマー会議(KUPI) 『公式資料：過程と結果』 -解題と抄訳	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 121-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 見市建	4. 巻 980
2. 論文標題 インドネシア大統領選 「最悪の選挙」はいかに戦われたか	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 109-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 見市,建	4. 巻 2024
2. 論文標題 政治YouTuberの台頭とインドネシアの民主主義	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 IDE スクエア -- 世界を見る眼	6. 最初と最後の頁 1~7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20561/0002001056	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計5件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Ken Miichi
2. 発表標題 Religio-Political Ideology and Gendered Cyberspace Discourse in Indonesia
3. 学会等名 Crime, Justice, and Digital Security in the Pandemic Era and Beyond: Local & Global Issues, Universitas Indonesia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ken Miichi
2. 発表標題 The Indonesian Feminists' Networking and Strategy: a Case Study of the 2019 Marriage Law Revision
3. 学会等名 The 12th International Convention of Asia Scholars (ICAS) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ken Miichi
2. 発表標題 Studi Islam dan Politik di Indonesia pada Era Polarisasi
3. 学会等名 Peran Umat Islam Indonesia dalam Pembangunan Sumber Daya Manusia Unggul Menuju Indonesia Emas 2045 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ken Miichi
2. 発表標題 s Madura unique?: Examining through elections
3. 学会等名 International Conference on Islamic Studies, State Islamic Institute of Madura (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ken Miichi
2. 発表標題 Post Islamism Revisited: The Response of Indonesia's Prosperous Justice Party (PKS) to Gender Related Issues
3. 学会等名 Islam and Diversity in Contemporary Indonesia: Belief, Gender, and Politics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 Jamaluddin Mohammad, Roland Gunawan, Achmat Hilmi, Hayati Aida, Usman Hamid and Ken Miichi	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Rumah Kitab	5. 総ページ数 150
3. 書名 Fikih Kepemimpinan Politik Perempuan	

1. 著者名 Ken Miichi	4. 発行年 2022年
2. 出版社 alif.id	5. 総ページ数 401
3. 書名 Ideologi dan Gerakan Politik Islam di Indonesia	

1. 著者名 見市建	4. 発行年 2020年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 285
3. 書名 「ジェンダーの政治と大統領選挙 分極化の犠牲となった性暴力排除法案」川村晃一編『2019年インドネシアの選挙ー深まる社会の分断とジョコウィの再選』	

1. 著者名 Ken Miichi	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Ull Press	5. 総ページ数 381
3. 書名 “Anti-Feminist Discourse in Indonesia: A Case Study of the Family Love Alliance (AILA),” in Farish A. Noor, Lies M. Marcoes, Moch Nur Ichwan (eds.), Trajectories of Indonesian Islam: Festschrift in Honour of Martin van Bruinessen	

1. 著者名 見市建、ハズマン・バハロム	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 387
3. 書名 「リス・マルクスとザイナ・アンワール インドネシアとマレーシアにおけるイスラミック・フェミニズムの発展」久志本裕子、野中葉編『東南アジアのイスラームを知るための64章』	

1. 著者名 見市建	4. 発行年 2024年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 281
3. 書名 「何が暴力を継続させるのか？ インドネシアにおけるジハード主義勢力の行動メカニズム」石井正子編 『紛争地域における信頼のゆくえ』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関